

『剣道幼年部について』

公益財団法人 修武館
剣道師範 安倍 尚志

新入館者は、当初幼年部として6年前まで少年部と同じ時間帯で道場の端を使って稽古しておりましたが、お兄ちゃんお姉ちゃん達の稽古が気になるのかそちらの方に顔が行き稽古に集中できませんでした。その後、幼年部の練習時間を1時間早めてから稽古に集中できるようになったと思います。

少子化社会と言われて久しく、子どもの減少がクラブの存続に影響し、クラブを閉めるところも出ています。我が修武館も同様に減少傾向にありましたが、思い切って幼稚園児を受け入れることといたしました。

剣道は、竹刀という用具を使う力が必要であり、また、「送り足」という剣道独特の足さばきがあります。日常生活に使う歩行とはまったく違う足さばきであり、幼稚園児に理解できるだろうかという不安

もありました。将来伸びていくために「送り足」は最も重要な要素で、理解できず悪い癖がついたまま高学年に上がるとその矯正に時間がかかります。幼稚園児を含む幼年部には多くの指導者が必要で、我が修武館には熱心で優秀な指導者がたくさんおられるので受け入れて良かったと感じております。

修武館は、歴史ある道場ですが案外伊丹の住民でも場所など知らない人も多く、ホームページの開設など広報に力を入れ始めた結果が、ここ数年、幼年部、少年部の会員数増加に繋がったのではないのでしょうか。

修武館は、基本を重視し指導してきましたが、これからも勝負にこだわることなく基本を重点に指導して参ります。



昭和16年10月29日生 72才

昭和 59 年 兵庫県警剣道 師範

平成 9 年 兵庫県警剣道 主席師範

平成 14 年 4 月 修武館師範

現在 (一財)兵庫県剣道連盟審議員

兵庫県警察剣道名誉師範

甲南大学体育会剣道部師範

範士八段

『私にとっての子ども達』

公益財団法人 修武館
幼年部指導員 磯崎 昭朗

幼年部の子ども達は、私の出来ないところを教えてくれている鏡です。初めて道場に来たとき、小さな子ども達はその環境に戸惑うことばかりです。それが一ヶ月過ぎればひとつずつわかってきてくれることに、とても喜びを感じています。

まず、礼の作法、立ち方、座り方から教えて行きますがこれがとても大変です。剣道は、礼に始まり礼に終わる。大人も出来ないことを幼い時より教えて少年部に上がって行く姿を楽しみに子ども達と一緒に稽古に励んでいます。

では、私の教え方をお書きします。3才の子どもは初めから竹刀を振ることが出来ないのです、足さばきから教えます。右足を前に、左足を後ろに、左足で前足を蹴るように、摺り足で進むことを30分教えますと大人より立派に出来て、子どもも私もとても楽しい顔になります。それから竹刀を持って面打

ちを1、2、3とします。手がばらばらですので、「左手をお鼻の上」を擦るように振りかぶり打つことを教えます。幼年部で基本をしっかり教えて少年部に送ります。少年部の先生、先輩、あとは宜しく、剣道を楽しませてあげてください。



昭和2年2月5日生 87才

小学校3年生で修武館へ

入門時の先生は、越川秀之助範士九段

自身の会社経営に多忙な日々を送り、30年竹刀を置く

74才で修武館に復帰、再び竹刀を握る

平成15年度 兵庫県年齢別選手権大会65才以上の部優勝

錬士七段

『武道具店から見た就学前児童の稽古について』

京都もりわき株式会社
代表取締役 橋元 城太郎

武道具店は、防具を提供する側です。提供する側から言えることは、まず、安全第一であること、その上で防具は使いやすいものであることが大切です。使う人の体に合っているか、着装した時、見た目に美しく見えるかどうか、さらにできるだけ軽量であり、値段もできるだけ安価であることが重要です。

しかし、購入者としてはできるだけながく使用したいと思われるので、大きめの物を希望されますが、限度があります。常々、道場の防具についてサポートするのが我々の仕事です。竹刀の修理、防具の修理及び補修等を月間約40ヶ所の道場や学校を回り、行っています。

私が50年間各道場の武者窓からのぞいた「就学前児童」の剣道に対する感想を申し上げます。

まず、就学前児童が道場に来て剣道を始めたという希望は、本人でしょうか？親御さんでしょうか？親の希望で道場に通わせられているケースが大半であると思いますが、何がお望みでしょうか？

- ①剣道が強くなって欲しい
- ②丈夫な体になって欲しい
- ③行儀作法を学ばせたい。

親の希望と子どものギャップはかなりあると思います。道場選びのポイントとして、

- ①組織はしっかりしているか？
- ②これまでの実績はあるか？
- ③立派な指導者か？
- ④指導者をサポート出来る人がいるか？
- ⑤保護者会は協力的か？
- ⑥保護者会が出過ぎることはないか？

このようなことを考えながら50年間、道場に通う子ども達を見守ってきました。子ども達とともに親御さん達の成長も期待しています。親の姿勢が必ず子どもに映っているように思われます。



昭和13年1月12日生 76才

約50年間、武道具の製造販売業に従事
平成10年 京都もりわき株式会社を設立
現在に至る

『小児科医からみたお稽古ごと』

公益財団法人 修武館
医学博士 佐藤 義典

生まれて初めて経験する保育園や幼稚園での集団生活——

今まで親の庇護(ひご)のもとにあった子ども達にとって、最初の内は決して楽しいものではありません。未知の世界に一人、放り出された不安で一杯です。保護者の皆さん方の想像以上に疲労(ひろう)困憊(こんぱい)しているかも知れません。毎年5月の連休を過ぎたころより、今まで元気だった子が、発熱を伴う感染症(主としてウイルス性の風邪)を反復するケースをよくみかけます。この様な時期に更にお稽古ごとで無理をさせると増々悪循環となつて時には、重症化することもありますので要注意です。

健康増進の目的であるお稽古ごとが、マイナス結果になっては何もありません。そこで、お稽古ごとを上手にプラスにさせていただくためには、どんな注意をしたらよいか、下記に列挙しましたので参考にしてください。

①予防接種を積極的にうけてください。

集団生活をはじめて最初にかかるのが水ぼうそう(水痘症)ついでおたふくかぜ(流行性耳下腺炎)です。予防接種については主治医と相談されたらよろしいが、私は、水痘

ワクチン、ついでおたふくワクチンの順に接種するのをおすすめします。

②風邪をひいたら、早目にお稽古を休み、睡眠を充分にとる。睡眠に勝る予防、治療はありません。

③お稽古ごとをはじめてから、どうも風邪をよくひく、という子ども達は、疲労のために、免疫力が低下しているのです。休息以外に治療はありませんが、先ず稽古の回数をへらす。(例えば週3回なら2回にへらす)完全にお稽古ごとをやめる必要はありません。

④熱がさがったからと言って、すぐ通園せず、一兩日、余分に休園し、バランスのとれた食事と水分を与えるとよいでしょう。

⑤休日の過ごししかた(重要!)

ハードスケジュールは出来るだけきけて、ゆったりとした休日を楽しんでください。あまり遠出をしないようにしましょう。(子どもを連れ歩くのは、圧倒的にお父さんに多いようです。)

最後に! 早い時期にお稽古をはじめるのは決して悪いことではありません。むしろ脳の発達を活性化し免疫力を高める効果があります。親子共に楽しいお稽古になるように工夫してください。



昭和11年1月27日生 78才

徳島大学医学部卒 医学博士
大阪市立小児保健センター未熟児室主任
市立伊丹病院小児科部長を歴任
昭和48年3月 佐藤小児科を伊丹市に開設
平成25年3月 同 閉院
現在、伊丹市医師会裁定委員、修武館評議員、乳児院、幼稚園園医、保健所での乳幼児健診他、現役として活躍中
教士七段

『就学前武道教育の実践』作成に関係した方々

監修

村山 勤治 国立大学法人 滋賀大学教育学部 教授
公益財団法人 修武館 常務理事

編集・アートディレクション・装丁・造本

道 脇 荒 ante dante 代表

安倍 尚志 公益財団法人 修武館 理事 剣道師範
磯崎 昭朗 公益財団法人 修武館 幼年部指導員
橋元 城太郎 京都もりわき株式会社 代表取締役
佐藤 義典 公益財団法人 修武館 評議員 医学博士
三木 隆義 公益財団法人 修武館 前事務局長
修武館 幼年部指導員の先生方ならびに館員のみなさま
修武館友の会ならびに保護者のみなさま

福森 一真 甲陽学院高等学校
坂本 拓海 兵庫県立伊丹西高等学校
堀谷 翔也 履正社高等学校
森本 斐 伊丹市立伊丹高等学校
森本 絵美 兵庫県立西宮今津高等学校
溝口 瑞季 兵庫県立伊丹北高等学校
惣引 彩 兵庫県立伊丹北高等学校
(※16・17頁 イラスト担当)

兵頭 重巳 公益財団法人 修武館 事務局長
溝口 理嘉子 公益財団法人 修武館 事務局員

助成





修武館



就学前武道教育の実践

幼年部2年間の取り組み

平成26年3月31日 発行

発行所 公益財団法人 修武館
〒664-0858
兵庫県伊丹市西台3丁目2-11
電話 072-773-1431

発行人 小西 新右衛門
(公益財団法人 修武館 館長)

印刷・製本 株式会社グラフィック
〒612-8395
京都市伏見区下鳥羽東芹川町33番地
電話 050-2018-0707

就学前武道教育の実践

幼年部2年間の取り組み

飯武脩